

帯広畜産大学同窓会報

第2号 平成7年9月 帯広市稲田町西2 帯広畜産大学内 帯広畜産大学同窓会事務局発行

同窓会員の皆様へ 会長 岸上正治 (獣医S18)

会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げますと共に、今年1月の阪神大震災に遭遇されました阪神・淡路島の会員の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

さて、昨年6月発行の「畜大同窓会便り」第1号にてお知らせ致しました本会の当面の課題について、役員一同鋭意取り組んでおりますが、その後の状況をご報告し、皆様のご理解と更なるご協力をお願いいたす次第です。

1) 本会の経済基盤の確立につきましては、新入生から同窓会へ協賛金（現在は1万円いただき、卒業・修了時に終身会費に振り替えます）をいただくことで、健全財政を維持・発展させつつあります。

2) 名簿の発行につきましては、三上正幸名簿編集委員長をはじめ名簿委員のご尽力により、記載事項や索引を充実させ、精度が高く、利用価値のある名簿をめざして改善を重ねています。今年も年内発行をめざして作業が進行中です。今年度版から広告を掲載することになりましたので、同窓生の皆様のご協力をお願いいたします（詳細は同封のご案内をご参照下さい）。

3) 組織強化であります。現在、14支部の結成をみており、今後とも各県単位での支部の結成をお願いする次第です。

4) 同窓会活動の最重要事項である名簿の精度を上げるために色々な努力を致しておりますが、一番間違いないのは、皆様の自己申告であります。名簿には送料は同窓会支払いの無料の葉書が添付されており、今回お送りしました封筒にも葉書が同封されておりますので、名簿記載事項に変更がありましたら直ぐにお知らせ下さい。

最後に、今秋10月14日に総会を開催しますので、多数のご出席をお待ちしております。今後とも皆様のご支援とご指導をお願い申しあげ、併せて会員各位の尚一層のご活躍を祈念いたします。

畜大は今！

学長 坂村貞雄

同窓生の皆様には年一度のこの便りでお近づきを願っているわけで、日頃のご無沙汰をお詫び致します。私は、本年4月1日開催の関東支部総会の折、懇親会にお招きいただき、亀谷会長、各務幹事長らのお心配りで、女性会員を含めた多数の皆様と親しく歓談する機会を得まして、楽しい思い出多い一歩を過ごすことができました。ここに関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

さて、政治も経済も、若しかすると科学技術まで、先行き不透明、そして凶悪犯や災害の発生で明るさの見えない当世であります。畜大は50有余年の伝統と教職員が一体となったご努力のおかげで、著実に成果を挙げておりますことは、ご同慶に堪えません。昨年度には、地域との一層の連携強化を目指して、「生方」の協力によりまして技術相談室が組織され、大変な反響を呼び、技術相談や共同研究の申込みが急増し、期待が膨らんでいます。いま、地域共同研究センターの設立に向けて燃えています。一方、原虫病分子免疫研究センターの教

授、助教の純増と助手1名の振り替えが認められ、一段と陣容が整いました。

ところで、学部一貫教育のための新カリキュラムが昨年から実施される中、古い生協の建物は畜大らしい新築（2階建1,270m²）の快適スポットに生まれ変わり、キャンパスライフに新しい思い出の場所が一つ加わりました。また、本年の第一次補正予算で、第二学部棟（6階建4,520m²）の新築が認められ、秋口には着工になります。他方で、女子学生が半数を占めるようになって、就職の確保、施設の整備など新たな課題も出てまいりました。

ともあれ、すべてにわたって変転の激しい今、国際化、情報化、地域との交流などを促し、将来を見据えた個性的な大学を目指し、社会からも、また皆様からも信頼され、愛される畜大へと不断の努力を続けてまいります。是非ご来学の機会を設けられ、元気の出る糧にさせていただけることを念願し、併せて今後とも変わらぬご指導、ご支援を心からお願いし、ご挨拶と致します。

☆ 学科などの近況 ☆

獣医学科

学科長 品川森一

学科の近況を紹介しようにと同窓会事務局長からの申し渡は大きな口には言えぬ晴天の霹靂でした。と申しますのは私は同窓生でないためか、いまだで本学の同窓会から何ら接触がないため関心もなく、この同窓会便りの存在も全く知らなかったからです。この様なことがないために紙面をお借りして部外者の要望を申しますと、「畜産大学に奉職した同窓生でない教官は半自動的に特別会員になる」というのはいかがなものでしょうか。（事務局より；そのように致します）

さて、話を本題に戻しますと、今年は教官の若返りがありました。退官された後藤教授の後任に白幡敏一先生（獣医S40）が昇任され、助教教授に国立公衆衛生院から教野壮一先生（獣医S54）が着任されました。家畜解剖学及び家畜臨床繁殖学にフレッシュマンが加わりました。東京大学及び山口大学から来られた本道栄一先生と高木光博先生です。結果として、獣医学科の教官の同窓生以外の教官は8名と増加し、大学審議会の答申に一步近づきました。

本学科の教育・研究に深い関わりのある原虫病分子免疫センターの鈴木直義教授（獣医S30）の後任として東京大学医化学研究所から豊田裕光先生が、さらに同センターは一部門増強され、教授は徳島大学から長沢秀行先生（獣医S53）、助教教授には獣医学科（獣医公衆衛生学教室）から振り替えにより移動した堀内基広先生、助手はフレッシュマンの井上昇先生（獣医H6）です。組織上、獣医学科から定員が一名減りましたが、学科の将来を考えこのような次第となりました。

本年の新入生の男女比は凡そ1:1でした。最近の希望職種傾向として、小動物の開業見習いと公務員、特に地方公務員が増加しております。畜産業の置かれた厳しい環境の所為か今年の6年生では公務員志向がよりはっきりしてきました。

同窓生各位の益々のご活躍を祈念いたしますと共に、母校への温かいご支援、ご指導をお願い致します。

畜産管理学科

学科長 左 久

昨年は畜産管理学科の生い立ちと現在について講座組織を紹介しました。今回は人の往来を中心に学科の近況を述べます。毎年3月になると定年退官する先生方の最終講義が行われ、今年、3月から4月にかけて管理学科では4件の先生の異動がありました。畜産資源経済学講座の工藤賢資教授(酪農S29)が停年退官となり昭和63年本学に赴任以来半慣れた帯広を後にして現在旭川にお住まいです。家畜育種増殖学講座の荒本孝次教授(酪農S32)は本年4月付けで岩手大学に連合農学研究科の専任教授に転出され、昭和41年以来30年に届くほどの長きに渡って奉職されてきた畜大を離れ盛岡に移られました。尚先生の長年の本学科の発展に貢献されて来られたこととそのご苦労にたい心から感謝しております。

また、畜産資源経済学講座の浅見淳之助手はこの4月より京都大学農学部へ講師として、さらに、同講座の阿部順一助手は5月より釧路公立大学の助教授にそれぞれ栄転されました。学科としては、お二人の先生のご研究の益々の発展を期待してお送りしました。そして、畜産資源経済学講座では新たに、金山久先生を鳥取大学より助教授として迎え、本学の農業経済分野は人的に大きな異動を迎えることになりました。一方、家畜育種増殖学講座は口田圭吾先生を仙台市役所より助手として迎えました。

このようにして、人の異動、カリキュラムの改変等々、外からみると変わっていないように見える大学も変化しています。そして特筆すべき最近の傾向として皆様すでにご存知の女子学生の急増があります。今や本学科の全学年とも学生のおよそ60%は女子です。昨今の厳しい就職戦線の中で彼女らの就職は全く難渋を極めております。

同窓生の皆様にはこのような本学科の実態をご理解いただき、引き続きご支援を賜りたいと存じます。

生物資源化学科

学科長 有賀秀子(酪農S31)

昨年度末で、学生時代からの畜大との関わりが実に44年という本学の「生き字引」のような三浦弘之先生(畜肉保健学、酪農S30)を停年でお送りし、一方4月からは輝くばかりのフレッシュマン、中村正先生(酪農食品化学、助手)をお迎えし新体制が整いました。本年度の新入生55名は60%を道外から迎え、地元の十勝・帯広からは僅か3名を受け入れた状況です。当学科もご多分にれず、女子学生の比率は高まる一方で、今年は54.5%と男子学生を凌駕し、学内はちょっとした女子大気分です。皆様ご想像できますでしょうか。男子学生もピアスやネックレスなど楽しむ時代ですから、一々驚いてはいられません。ジーンズとTシャツといったかつての畜大風俗は、今ではあまりお目にかかることがなくなってきました。

今年の当学科のニュースの筆頭は、新しい校舎が本学科に向けて建築されるようになったことです。農産化学科時代からの2階建ての研究棟は補修を加えながらも機能し、多数の優れた研究を発表し、優れた人材を多数輩出してきましたが、学部棟に比較して不便さは否定しきりもなく、長年改築が要求されてきました。その本年度着工が決定し、7月現在、21世紀の研究・教育の場として理想的な建造物を作ってもらうため、日夜激論をたたかわして構想をまとめつつあるところです。多分平

成9年度には供用できるでしょう。6階建てという畜大では高層の建築物がモデルとなって、さらにより快適な研究が進められるような建築物が後に続くことが期待されます。

今年の就職戦線は、昨年の氷河期よりさらに厳しく、地理的に不利な本学ではマスコミの報道より過酷な状況にあります。なかなか内定を取りつけることができません。このような時期にこそ、同窓の皆様の特段のご支援をお願い申し上げる次第でございます。

畜産環境科学科

学科長 高畑英彦

本学科が平成2年に誕生して早くも5年目を迎えました。畜大同窓会便り第1号で本学科の講座・研究室の構成について紹介しましたが、学生を三つの系に分けて教育するなど昔の旧3学科の影が色濃く残っていることは否定出来ません。卒業生の皆さんにとっては、学科の名称が変わっていても自分の出た研究室が健在であり、本学を訪問されてもさほどの違和感は感じないと思います。

しかし、学科改組の効果や新カリキュラムの実施効果などを問われる年度に進行し、本学科においても、これからその効果の検証を行う必要に迫られていて学科長としては頭の痛い毎日です。私の見るところ、「畜産環境科学科」という新しい学問分野の教育研究活動を学科を上げて展開するにはまだまだ問題が多く、学科として体制整備、教育目的とカリキュラムの見直し、学際領域分野の充実等々、これから先、数年かけて自己点検評価を重ね、改善することになります。

さて、平成6年度の教官人事についてお知らせ致します。昨年12月に土地資源利用学講座の松田豊教授が北海道大学農学部に転出されました。また、近室祐弘教授(酪農S29)は本年3月に停年退官され、本学の名誉教授になられ札幌市に住まわれております。両先生の長年のご功績に差し感謝と敬意を表し、今後の更なるご活躍を心よりお祈りします。お二人の後任に土谷富士夫助教授が教授に昇任、道立天北農業試験場長菊池晃二氏(酪農S38)を教授に迎えました。また、谷昌幸氏を同講座の助手に迎えました。飼料作物学講座では加藤清明氏を助手に迎えました。現在、教授13名、助教授11名、助手12名、合計36名の教官と事務員5名の大所帯の学科であります。

畜産環境科学科の事務を行う共用室が学部棟玄関の左側に出来ました。各教官の電話は直通電話に変わり、局番も49に変わっています。教官の電話番号を知りたい時は共用室(☎0155-495591)に問い合わせ下さい。

卒業生の皆さん、変わり行く大学の姿に來ませんか。熱烈歓迎します。

教養課程

教養課程主任代理 川端 喬

オウム事件は、わが畜産大学にも不愉快な事件です。世間では一人で全体を代表させます。いっばいとかからが好きなんですね。「畜大は有名なになりました」「畜大はエリート大学なのですね」「優秀な学生がいるのですね」「どんな教育をやっているのですか、税金を使って」「事件の責任をとれ」「畜大は廃校にすべきだ」など当てこすりや脅迫めいたご意見をあちこちで聞かれました。我が卒業生の中にも多分このような嫌がらせを受けて落ち込んだ人ものいるでしょう。

麻原逮捕後の報道を読んだり聞いたりしていると、何とひどいことを！憤りを感じます。社会から孤立した集団が独善的になるとどんなことになるかという実験室の実験です。世間は

「劇画の世界だ」と事件をコマ切りの中に押し込んでしまおうとしています。劇画の世界ではなく、現実の事件であることを忘れてはいけません。

畜大ではカリキュラムおよび組織の見直しという大きな課題に挑戦しています。畜大が今努力していることは、農学・畜産学の先端知識と技術の教育研究とその成果を社会に有効に還元出来る人材の育成です。そのために複眼的に世界を見る目、政治、経済、分化、地域、歴史など専門技術を社会で発揮できる視野の拡大、学問の上位理念を大切に、専門家としてその応用力、自発的能力、積極性を育てる目標を分かりやすく組織やカリキュラムに表現しようと努力しています。

最後ですが、教養課程の長老は絶賛、小柳、川端となり昭和10年以前の先生方は第二の人生を送られています。教養課程も教育および研究体制の両面で生まれ変わろうとしています。ご期待下さい。新任教官として千葉教授（文学）の後任に柴口順一講師、日本語・日本事情の楠田尚史講師が着任されました。

別科（「黎明会」の皆さまへ） 別科主任 谷口哲司
修了生の皆さまにおかれましては益々お元気に活躍のことと拝察いたしお慶び申し上げます。前報に引き続き別科の近況についてお知らせいたします。

いま別科での最大関心事は入学者に関することです。ご承知のように、我国の18才人口は平成4年がピークの205万人から急激に減少し始め、平成12年には151万人になります。また、昨年1月の調査によると、道内の農家79,500戸のうち16才以上の後継者がいるのは40%の31,940戸に過ぎず、前年に較べると1,590戸4.7%減っています。さらに、農家子弟の新規学卒就農者も年々減少してきており、平成5年度就農者数は本学修了者を含めても329人（前年比55人減）と報告されています。

一方、農学系別科は本学の外に千葉大園芸別科、岩手大、岐阜大、三重大のそれぞれ農業別科、宮崎大の畜産別科があります。しかし、平成6年度の入学者は、本学ではほぼ定員を満たしていますが、岐阜、三重、宮崎は定員の2～3割程度にすぎず、岩手、千葉でもそれぞれ4割及び8割にしか達していません。

本学別科の平成7年度の入学者は既に定員を割っており、上述の状況から今後志願者の減少を覚悟しなければなりません。特に別科は危機感をもってこの現象に対処しなければなりません。

その一つとしてカリキュラムを改正して別科をより魅力のあるものにしようとしております。ご存じのように別科は「科学的知識をもち、地域農業の中核的リーダーとなりうるような農業後継者を養成する」ことを目的としています。この基本目標は当然変わらないにしても、これを達成するためのカリキュラムなどの手段は時代の要請にマッチしたものに改正していく必要があります。学部においては平成2年度からの学科改組に伴う新カリキュラムを、平成6年度からその改正カリキュラムを実施しておりますが、目下改正カリキュラムを今一度見直しをし平成8年度から新改正カリキュラムの実施予定であります。この様に目まぐるしく変化する内外の状況に対して、大学教育は即刻対応しなければなりません。別科においても同様であります。我国の農業の発展に貢献し別科をより発展させるカリキュラムを願っております。

カリキュラム改正の外に修了生の資格の問題についても関係機関への働きかけ及び交渉、上述の別科を開設している大学間

との協力関係の構築とその体制の強化等々、推進・解決すべき問題が山積しております。修了生の皆さまのご協力、ご助言、ご指導そしてご鞭撻の程を切にお願い申し上げます。

最後に、熊瀬先生（酪農S49）は連日ご多忙を極めておりますが、お元気にご活躍されておられます。時にはご連絡下さるようお願い致します。電話0155-49-5715、FAX.0155-49-5716です。

同窓会各支部の近況

青森県支部

会長 諏訪内博之（獣医S20）

青森支部は、昭和42年7月8日会員26名で発足し、その後会員が増加し、現在73名となりました。初代支部長は、昭和18年獣医卒で、その後、岩手医大を卒業の野呂和博氏で、現在青森県本町で野呂医院を開業されております。氏は平成3年に地域医療に献身的に活躍されている医師に送られる第19回医療功労賞（読売新聞社）を受賞され、現在、本支部の名誉会長として活躍いただいております。昭和61年からは不肖、諏訪内が支部長を務めております。

会員の職業別の活躍ぶりを見ますと、医師開業1名、獣医師開業4名、会社関係14名、大学教官2名、国職員3名、県職員21名、教職員6名、市町村職員4名、団体職員4名、酪農経営など7名、無職6名の合計73名です。

毎年1回總會を開催し、会員相互の親睦を図ることにしており、その際、学術研鑽のために会員が日常実施している業務から、参考になる事を発表していただいております。平成6年度は名誉会長の野呂氏が「中高年女性に多い骨粗しょう症の食事指導について」と、北里大学畜産学部飼料農地造成学教室の佐藤幸一氏（草地S45）が、フランスのニースで開催された国際学会で発表された「草地と土壌の孔隙に関する研究」についてそれぞれ発表されました。終了後は早速懇親会に入り、一杯飲みながら近況を語り合い、最後に碧雲寮寮歌を歌い、再会を約し、盛大に総会を終了致しました。以上、近況を報告いたします。

秋田県支部 支部長 月澤雄一（旧姓黒澤、獣医S18）

秋田の春は何時も男鹿からやって来る。男鹿の山菜「行者にんにく」が秋田市民市場に出回り始める頃から秋田の山菜シーズンがスタートし、続いて奥羽山脈系のものがドッと店頭に溢れることになる。その頃、海からも春の様々な新鮮な魚介類が上陸してくることに。そして、6月ともなれば大森網かけ声と共に男鹿の「鯛祭り」やって来る。丁度その頃、我が帯広畜産大学秋田同窓会が、男鹿半島の南端の網元兼旅館「磯野屋」で開かれるのが恒例である。生き造りの天然鯛、刺身、焼き物、ザッパ汁等の鯛づくし料理に頭酒を酌み交わすのが我が同窓会のお楽しみコースで、今日まで続いている。

昨年春（平成6年6月18日）、全会員の承認を得て帯広畜産大学同窓会秋田県支部会となり、50名の会員構成の団体となった次第であるが、これまで7～8人で年に1回の懇親会をやってきた延長みたいな気が取れないけれども事務局から送ってもらった「畜大便り」等を通して母校の状況が良く判ること、連絡が取り易く成ったこと等の点で今後に大いに期待している次第であります。

かつて、隣青森県同窓会と合同の同窓会を2回交互に開催した事や、乳業関係会社の同窓生が秋田県に転勤して来る毎にお互いに活発なコミュニケーションで盛り上がった事等が懐か

き思ひ出される。秋田は酒と美人の里、彼らもその気であるし、当方も大いに公私混同して同窓生の絆を深めてきたものである。

また、かつて秋田県出身の学生のネーバーボーデンであった家の娘さん（現在、池田町の駅前ホテルを営んでいる女社長）が秋田を訪ね、旧交を深めたり、秋田支部会のメンバーが帯広を訪れた時には彼女のホテルにお世話になるなど、帯広畜産大学を取り巻く思い出の中には未だ我々の青春が生きているような錯覚を覚える一杯残っているようである。「元氣なうちに北海道へ思い出の旅を」と同窓生の誰もが考えていることではないだろうか。

最後に母校と同窓会の発展・繁栄と同窓生諸氏に幸大からんことを念願し、近況報告に代える次第である。

関東支部 幹事長 各務俊彦（酪農S35）

関東地方は平年より3～4日遅い梅雨明けで、以来連日の猛暑が続き夏本番となっている。この時期、快適な北海道に住まわれている方々は本当に幸せだ。在学中に味わった紺碧の空、梢を渡る風にサラサラと喜ぶ木の葉、そして青春の心に活を入れ込んだものにしてくれた白樺の白い肌、豊かな自然環境に加えて先生方や友人たちと過ごせた畜大時代は本当に幸せだったと感謝している。関東同窓会の近況をお知らせするに当たり、昔日を彷彿させる想いがこみ上げ、この時季の十勝の青と緑と白のあのキャンパスの情景が鮮明に浮かんで来てしまった。

さて、関東同窓会の近況ですが、4月1日に行われた総会の模様をお伝えする。今年度の総会は坂村貞雄学長、佐藤邦志（獣医S37）、山田純三（獣医S39）、山田明夫（獣医S40）の3先生をお迎えして、飯田橋のホテルエドモントで開催された。首都圏と関東近県在住の昭和18年から平成5年までの卒業生70名余が出席した。亀谷 勉会長（獣医S25）が今年はOGへの参加を強く呼びかけられたため、6名のOGの参加を得、華やかな総会を開催できた。総会議題を無事消化し、新役員10名が選出された。役員を代表して、女性初の副会長となられた海野玲子さん（獣医S29）が、「これを機に同窓会への女性の積極的進出を」と決意のほどを述べられた。熱四等瑞宝章を受けられた顧問の秋山政文さん（獣医S18）に記念品が贈られ、先の阪神大震災で被災された関西同窓会兵庫県支部からの被害状況が手紙で紹介された。また、関東同窓会からのお見舞金の手配が伝えられた。

坂村学長からは大学の近況が伝えられ、続いて行われた懇親会では有志のスピーチが飛び交った。在学当時に戻って、終始和気あいあいにうちに歓談が進み、最後には道遠歌を全員で方々を組んで合唱し、交流と団結を深めた。

関東同窓会会員1,100名への案内状から数えるところ出席者が大変少ないが、今回は是非とも100名程度の出席者を目標にさらに密な働きかけをしようとして確認があった。唯、今回は昭和60年に以降卒業している方が12名も出席され、若いパワーと女性6名の気爽もあって心の通った明るく発展的な総会だったと皆に喜ばれた。

最後に、盛夏の折、学長はじめ諸先生方、そして同意の皆様方のご健康と益々のご隆昌を心からお祈りする次第です。

鳥取県支部 支部長 朽木 廣（獣医S23）

昨年産声を上げたばかりの若い同意会支部です。会員数は昭和18年卒から平成5年卒までの14名です。毎年4月総会を開

き懇親会を会費制で行っています。

鳥取大学農学部があることから、先生または研究者として同意会が赴任していること（最近、原田悦守；獣医S38；が鳥取大学農学部獣医学科獣医生理生化学教室の教授に赴任されました）、小動物獣医学部の重鎮である山根義久氏（現、東京農工大、獣医学科教授）の膝元です。ですから小動物臨床開業をめざす若い同意生の赴任が多いことが本支部の特徴です。

ニュースとして、副支部長の兼本吉郎氏（獣医S22、鳥取大学農学部講師）が半生の研究を集大成した過疎の論文で今日と大学の農林経済部門では最高齢の博士号を取得されました。

本年11月10～12日、鳥取市で開催されます獣医学会に参加されます同意生を対象に、会費制で懇親会を開催します。出席者される方は受付又は伝言板等の情報連絡に留意され、是非、懇親会に参加下さい。お待ちしております。

尚、県内に在住の同意生の方で本支部に登録されていない方がおられましたら、朽木（☎0859-33-6778）太田恒公利（幹事、獣医S41、☎0857-24-1014）または福本幸久（会計、獣医S46、☎0858-37-2273）までご連絡下さい。

九州支部 会長 深田泰三（酪農S30）

九州支部は、昭和43年10月に福岡在住の有志により細々と発足以来、27年目を迎え、今年7月31日現在で、会員数153名の大所帯になっております。

本会の特徴の一つとして、毎年11月の最終土曜日に九州・沖縄の8県が持ち回りで総会を開催しております。ちなみに、昨年は大分県久住町湯坪にて、渡辺浩司君（生産S58）経営の民宿「碧雲荘」にて盛大に挙行されました。参加者は正会員22名とその家族14名の合計36名でした。今年は家人誠二君（工学S55）が当番幹事で、熊本県内で11月25日（土）に開催予定です。総会は帯広から遠く離れること2,700 km 有余。それぞれが、夢多き青春時代を大自然の中で思う存分謳歌した頃にタイムスリップし、碧雲寮、かちつ、バイト、〇〇飛ばし、エッセンタック etc と、先輩、後輩入り乱れて、奇妙に時系列に話題が繋がって行くのであります。また、酔うほどに誠に迷惑な話ですが、真夜中に親しみをこめて恩師の諸先生宅に電話、と言ったこともありました。とにかく懐かしく、楽しく、自由奔放な「宴」なのであります。

その二として、本会が誇るべきものとして、平成2年に発刊した創立20周年記念誌「碧雲」があることです。興味のある方は畜大の図書館でご一読下さい。

その三として、発足以来、会長（決して支部長とは言わない）と事務局長が未だに交代していません。昭和18年卒の森田貞龍、篠田廣一郎、迫田隆平の大先輩を筆頭に諸先輩がおられる中、何故か私が会長で、事務局長は高木信雄君（獣医S42）であります（しかし、昭和59年3月19日までは、これまた何故か故高山邦彦君と二人でした）。

以上が本会の簡単な紹介ですが、詳しくは現地に、と一言することにして、ご母校の皆様にお願ひがあります。過去27年の間に学会等が宮崎、鹿児島、福岡で開催されましたが、事前に情報をキャッチし何度か総会をその日程に合わせて総会を開催したことがあります。私たちは遠く九州・沖縄の地であるが故に、会員の「畜大」への愛着は計り知れないものがあるのです。ご面倒ですが学会などの開催日程を事前にご連絡いただき、親しく情報交換の場を提供いただきますようお願いいたします。

1995年7月8日、南マットグロッソ州の州都カンボグランデ市近郊にある藤田牧場(藤田宗昭、旧姓堀めぐみ夫妻、共に草地S62、牧場面積2,800ヘクタール、牛1,000頭、畜大卒で最後の移住者)にて、西川学長米伯の折創立されて以来続けられている1年1回の集まりの第18回目が開催されました。出席者の大半はサンパウロ市に集まり、貸切寝台バスで7日午後9時出発、この時期(乾期)には珍しい小雨の夜道を一路西に向かって時速100~120kmで快走し、翌朝夜明けと共に視界が開け、あくまでも平坦な道に沿って見渡す限りの牧野に続く牧野、所々に点する真っ白な壁の住宅とこいまた白い点々の牛の群れ、ブラジルの広大さを満喫して午前9時過ぎに無事市内のホテルにチェックイン、さらに40km離れた藤田牧場に向かう。先着の井田夫妻(酪農S28)、新井ファミリー(酪農S37)、牧場主藤田夫妻と合流、早速開会(はじめの3回までは単身の集まりで、会場もレストランでしたが、4回目からは家族参加で、会場も会員の牧場を持ち回りをしています。浅井会長(獣医S23)の「今回は日本では勿論、ここブラジル在住の他の大学の同窓会でも考えられない様な遠い所での集まりでしたが、多くの友の元氣な顔に接し本当に嬉しい、家族とともども味合う1年1回の1番うまい酒の集いを十分に満喫して欲しい」との主旨の挨拶に続いて私が乾杯の音頭をとる「人生において2度までもその志を同じくし、且つ、との出合いをこよなく大切にすることに集まった我々仲間には世界で最高の仲間だし、まだ若いのでがんばりましょう」乾杯しました。

それから延々9時間余、シユラスコを食べ、ビール、ウイスキー、差し入れの日本酒など、時間を気にしない悠長な語り合い、年代を感じさせない会話、暗くなくてはならぬ3mもの高さに積み上げられた2つの木の山に火が入り、大草原のまっただ中で、昔むかしファイヤーストームを懐かしく思い出しました。会の終わりを告げたのは満天に星の美しい9時過ぎ、みんなで寮歌と遠遊歌を合唱し、ホテルに引き上げました。翌9日朝8時にホテル前に集合し、来年7月6日サンパウロ州アテバイア市の青山農場(酪農S46)での再会を約し、別れを惜しみました。

出席者の会場までの距離をご紹介します。多くの人はサンパウロ会場 片道1,090 km (以下、全て片道)、山崎孝志(獣医S54) マラニオン州→サンパウロ 3,000 km、井田善郎(酪農S28) 北マットグロッソ州→会場 1,200 km、新井重孝(酪農S37) バラナ州ロドリナ市→会場 600 km、渋谷ミナス・ジェラス州モンテスカラス市→サンパウロ 1,150 km。このようにどこが会場になっても結構遠路になりますが、同窓生はみんな家族共々この年に1回の集いを楽しみにしております。

この会がこのように継続しているのは、会長はじめ皆さんの理解と協力によりますが、特に尽力いただいているのが、ヤクルト・ド・ブラジル株式会社若き副社長 飯崎貞雄(酪農S40)であり、同窓生一同感謝しております。

今日まで会員及び家族に不幸皆無、定年退職皆無。感謝!

♡ 事務局便り ♡

1) 平成7年度総会の開催について

右記の要領で総会を開催しますので、ご案内申し上げます。

日時 平成7年10月14日(土) 午前11時より

場所 帯広畜産大学講堂

議題 1) 平成6年度事業報告、2) 平成6年度会計報告、3) 監査報告、4) 役員改選、5) 平成7年度事業計画、6) 平成7年度予算、7) 会則改正、8) その他

尚、総会終了後、農場横の東屋で懇親会を行います。

会費は1,000円で総会受け付けで承ります。

総会ならびに懇親会に多数の出席をお願いいたします。

2) 同窓会の財政状況について

会計 石橋憲一(農化S42)、松田清明(経農S41)

平成5年10月より会計を担当し、2年近くになろうとしております。同窓生の皆様には、会の財政はどのようになっているのか、関心をお持ちの方も多いかと思います。そこで、年間の収支の概要について、簡単に説明させていただきます。

まず、会計年度ですが、昨年より10月1日~9月30日に変更いたしました。これは名簿販売による収入と支出(印刷費の支払い)が年度にまたがらないようにすること、また名簿の頒布案内と総会案内の資料を同時に発送し、郵送料の節減をはかることなどによるものです。収入の主なものは2種の特別会計、即ち平成5年より継続している新入生特別会計(入学時に10,000円を同窓会協賛金として納入いただき、卒業・終了後は終身会費として取り扱う)と名簿販売特別会計(これからは毎年11月発行予定の名簿販売による)の他、前年度からの繰越金となっております。平成7年の新入生特別会計は新入生303名に対し219名(新入生の72%)の納入実績となっており、さらに24名の過年度卒業・修了生より終身会費を納めていただきました。次に、名簿販売特別会計ですが、平成6年版名簿(頒価3,000円)は同年6月に頒布案内を発送し、現在までに1,274冊を販売しております。

支出としては、名簿の印刷代(2,000冊で250万円程度)、会報・頒布案内・封筒・振込表・タックシールなどの印刷代(約80万円)、郵送料(頒布案内9,000通、名簿発送1,200冊として計115万円)、アルバイト代(コンピュータ打ち込みによる名簿の整備・事務処理、頒布案内・名簿の発送補助として計42万円)、事務費(用紙類、電話・コピー代、フロッピーディスク、プリンター・ポストネット計20万円)、記念品代(新入生、総会で計30万円)などが主要な項目です。従って、年間の支出合計は560~580万円に達すると思われます。収入の内、新入生特別会計として220万円、名簿販売特別会計を1,200冊として360万円、合計580万円程度の収入を見込めるとしますと、繰越金の大部分を占める定期貯金と貯蓄型養老保険(合計1,000万円)を解約することなく、同窓会の運営ができると思われます。尚、正式な会計報告は総会で行います。

同窓会の健全な財政運営のために、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。(平成7年9月1日現在)

3) 大学の電話番号の変更について

大学の電話番号が電話交換機のデジタル化に伴って変わりました。各教官の電話は直通になりました。各教官の電話番号は下記に示します各学科の事務室にお尋ね下さい。皆様が利用されたいと思われる所の電話番号もご紹介いたします。

教養課程 (0155-49-5600 以下局番等省略)、獣医学科 (5400)、畜産管理学科 (5460)、畜産環境科学科 (5591)、生物資源化学科 (5575)、別科教室 (5715)、農場教室

(5651)、家畜病院教室 (5651)、図書館運用係 (5337)、学生部教務係 (5293)。上記以外の電話番号は関連のありそうな所へ電話して尋ねて下さい。

同窓会の事務局は5350 (獣医学科畜産学講座 山田純三) です。FAXは5654へお願いします。留守の時は副会長 5380 (獣医学科畜産学講座 佐藤邦忠) または名簿編集委員長 5561 (生物資源化学科生物資源利用学講座 三上正幸) へお願いします。

4) 平成6年度事業報告 (平成7年9月1日現在)

平成6年10月21日 第1回運営委員会開催。
平成6年12月1日 第1回運営委員会議事録発送。
平成7年1月20日 畜大便り, 102号を各支部に発送。
平成7年2月1日 兵庫県支部に地震見舞いを送る。
平成7年3月 本学入試合格者への協賛金依頼の文書, および卒業生に終身会費の納入依頼と新住所などの届け出依頼の文書を出す。
平成7年4月1日 関東同窓会に出席。
平成7年4月21日 畜大便り, 103号を各支部に発送。
平成7年6月22日 同窓会報原稿依頼書を送る。
平成7年6月30日 第1回役員会開催
平成7年8月18日 畜大便り, 104号を各支部に発送。
平成7年9月1日 第2回役員会

5) 支部会の結成状況について

昨年来、支部会の結成を強くお願いいたしておりますが、8月現在まで14支部が結成されております。()は会長等の代表者氏名(敬称略)です。ブラジル支部(浅井 澄)、札幌支部(市岡英二)、釧路支部(石沢友男)、富良野支部(中根正彦)、茅室支部(村瀬洋一)、青森県支部(源訪内博之)、秋田県支部(月沢雄一)、関東支部(亀谷 勉)、三重県支部(東原信幸)、兵庫県支部(杉山将)、鳥取県支部(杓木 廣)、島根県支部(安部康之)、広島県支部(花岡康春)、愛媛県支部(横山政市)、九州支部(深田泰三)。上記以外に既成の支部がありましたら、事務局に同報告をお願いいたします。全都道府県に支部の結成をお願いいたします。

6) 平成7年度版同窓会名簿の頒布について

同封の同窓会頒布並びに協賛広告のご案内をお読みになり、同封の振替用紙で申し込み下さい。年々、改良され、利用しやすくなっております。勿論、今年卒業・修了の方々の名前・住所等も含まれております。

また、今年度版から協賛広告を名簿に載せることになりました。勤務先の企業等の広告を同封の申込書で申し込み下さい。宜しくご協力をお願いいたします。

7) 同窓会報の発刊について

役員会の決定で、昨年お送りしました「畜大同窓会便り」を発展的に改称し、今年度からこの「帯広畜産大学同窓会報」をお届けすることになりました。以前、名簿と一緒に同様のものがありました。それらには号番号がありませんので、本報の号番号は先の「畜大同窓会便り」の番号を継承し第2号といたしました。これは前同窓会報の発刊に尽力された先輩諸氏のご努力を無視するものでは決して無いことをご理解下さい。

この辺の経緯をご説明いたします。以前の名簿と一緒にいただいた同窓会報は、数年間隔で会報を作成し、それを全員にお送りし、代金をお送りいただくという方式をとってまいりました。しかし、それで代金の回収率が悪く、且つ数年間隔での名簿の発行では住所の精度が悪く、返送数や再発送が大変多く、郵

送料金の値上げと共に郵送経費が非常に高つくき、財政状態が悪くなったと聞き及んでおります。そこで、平成5年度から名簿の精度を上げるために毎年発行にし、経費削減のために名簿を注文制に切り替えた次第です。平成5年度版は帯広畜産大学同窓会報となっておりますが、平成6年度から帯広畜産大学同窓会名簿となっております。名簿と同窓会報を一冊にすると、名簿を注文されない会員の方々には同窓会報をお届け出来ないこととなりますので、昨年から会員の皆様には「畜大同窓会便り」をお送りし、今年から「帯広畜産大学同窓会報」をお送りすることになった次第です。名簿の注文方式で名簿関係経費も黒字になりましたし、平成5年度新入生から入学時に同窓会に協賛金をいただくことで本会の経済基盤も確立しつつあります。今後少しずつではありますが内容を充実させ、事務局さらには大学と同窓会会員各位および支部会とを結ぶ情報誌へと発展させて行きたいと考えております。本報は経費節減のために、全て事務局でパソコンを用いて作成し、印刷だけを印刷屋にお願いして作っておりますので、商業誌の様に体裁こそ整ってはいませんが、会員の皆様には喜んで読んでいただけるものにしたいたとがんばっております。宜しくご理解の上、今後ともご協力をお願いいたします。

編集後記

前号は大学の近況に重点を置き、この第2号は全国に支部会を作っていたことを意図して、各支部会の近況の特集と致しました。お忙しいところ、ブラジルからも原稿をいただきました(ブラジル支部の総会には8年前の出張の折に私も参加させていただきましたが、本当にすばらしい会でした)。一般論として、九州支部の深田先輩も書いておられますが、大学から遠い所ほど母校を思う気持ち強いのかも知れません。しかし、茅室町にもしっかりした支部が活動しています。これを読んでいただき、我が県にも支部会を作ろうと思い立っていただけることを期待しております。支部には大学の刊行物である「畜大便り」を大学のご好意で送らせていただいております。支部からの事務局へのリクエストがありましたら出来るだけのことは致しますので、ご遠慮無くお申しつけ下さい。財政基盤が確立したい、支部の総会にローテーションでも本部から役員等を派遣したいなどと考えております。

阪神・淡路島の会員の皆様、その後お元気でしょうか。同窓会として支部があります兵庫県支部に心ばかりのお見舞金を送りました。杉山会長から丁重な礼状と共に人的な被害は無かった旨、報告がありました。本当に不幸中の幸いでした。1日も早い完全復興を祈念いたします。

オーム関連では母校も有名になりましたが、在学中の彼は本当にまじめで優秀な学生でした。勿論、その後の進学先の大学の研究所に責任転嫁をしう等とは決して思っていない。彼のご家族の心労を思うことが暗くなります。

次号はクラス会特集を予定しております。定期的にクラス会を開いておられるクラス、クラス誌等を発刊しておられるクラス等ありましたら、是非原稿をお寄せ下さい。これから毎年9月に本誌をお届けするつもりです。個人の投稿も歓迎いたします。同窓会報の趣旨に合うものであれば出来るだけ掲載してまいります。尚、原稿の締切は7月中旬です。

最後になりましたが、学長先生はじめ玉稿をお寄せいただいた皆様に御礼を申し上げます。有り難うございました。

今年は戦後50年とか。戦死された先輩のご冥福をお祈りいたします。平和を愛する日本が世界平和に貢献することを!

皆さん第3号でまたお会いしましょう。お元気で! (J.Y.)